

農業技術短報

No. 61, 2007. 10. 1
 三重県科学技術振興センター
 農業研究部
 畜産研究部

<研究成果の紹介>

【作物研究の成果】 斑点米の被害は出穂期の遅れが5日以内であれば増加しない 2 小明渠浅耕播種機を利用した小麦播種前の圃場処理法 3	トマトすすかび病の発生と葉かび病 抵抗性品種 8
【果樹研究の成果】 ブドウ果粒の長期常温貯蔵方法 4 極早生ウンシュウ新品種「みえ紀南1号」 5 亜熱帯果樹アテモヤは夕方～夜間に人工授粉すると結実率が高い 6	【茶研究の成果】 バンカー植物で増えたケナガカブリダニがカンザワハダニの密度を抑制する 9 少肥栽培に有望なチャ品種の生産性と品質 10 液体脂肪酸資材と土着脱窒菌を用いた茶園暗渠排水の脱窒技術 11
【野菜・花き研究の成果】 転炉スラグを利用したアブラナ科野菜根こぶ病の防除 7	【循環・土壌肥料研究の成果】 近赤外分光法による鶏ふん堆肥の可給態窒素の推定 12

農業研究部における「環境に優しい農業技術開発」への取り組み

農業研究部 研究企画監 富川 章

農業は、基本的には自然界の物質循環に依存した営みで、その生産活動を通じて二次的な自然環境を形成しています。このため、農業は環境と調和した産業といわれており、環境との調和なしでは生産活動自体を長期的に持続させることはできません。言い換えれば、個々の農産物にはそれを支える環境の影響が大きくなります。近年、農業生産を行うなかで、「食の安全・安心」や「地球の温暖化」に関連するテーマがマスコミ等に大きく取り上げられ関心が高まっていますが、農業生産に関わる環境はこれらのテーマとも関わる大きな問題と考えています。

農業研究部では研究課題を5群に分類して取り組んでいます。「安全・安心」や「環境保全」、「持続型農業」、「循環型社会」のキーワードは、「産地間競争」とともに「農業技術開発の推進」の中で重要な研究分野となっています。各研究課では、環境と調和がとれた農業生産活動を推進し、消費者と生産者を結ぶ信頼関係を構築するために、有効で適切な病害虫・雑草や施肥を含む栽培管理、未利用資源の循環利用等の総合的な技術開発に取り組み、その成果のすみやかな現場への移転を行っているところです。今後とも、関係各位のいっそうのご支援をお願いいたします。

三重県科学技術振興センター農業研究部
 〒515 2316 三重県松阪市嬉野川北町 5 3 0
 TEL 0598 42 6357 FAX 0598 42 1644
<http://www.mate.pref.mie.jp/marc/>

三重県科学技術振興センター畜産研究部
 〒515 2316 三重県松阪市嬉野町1444 1
 TEL 0598 42 2027 FAX 0598 42 2043
<http://www.mate.pref.mie.jp/livestock/>